

ボート部復活へ艇贈る

かつての名門・洛陽工高OB、唯一の部員に



①新調した1人乗りボートを見つめる谷口君(手前)とOBら(大津市御殿浜)
②寄贈されたボートで琵琶湖にこぎ出す谷口君



て、入部を決めた。

普段の練習は伏見工業高(伏見区)と合同で行うが、「合同チームでなく『洛陽工』の名を背負って試合に出たい」という谷口君の思いはつづいた。OB会「洛陽ボートクラブ」が「力になりたい」と、64万円の寄付を集めて、新しいボートを贈った。

進水式にはOB7人が駆けつけた。同高伝統カラーの赤いオールを手にした谷口君が、真夏の日差し輝く湖面にボートをこぎ出すと、「頑張れ」と大きな声援が飛んだ。洛陽ボートクラブの山田博彦会長(65)―北区―は「ボート部の活躍はOB300人の夢でもある。このボートで活躍してもらい、復活のきっかけにしてもらいたい」と期待を込める。

谷口君は「今までのボートと違ってこぎやすく、よく進む」と手応えを感じ、「寄付してもらったからには、よい成績を残せるように頑張りたい」と一層の飛躍を誓った。

(逸見祐介)

60年以上の伝統を誇る洛陽工業高(京都市南区)のボート部をたった1人で守る部員のために、OBたちが1人乗りボートを贈り、9日に大津市御殿浜の琵琶湖で進水式を行った。かつて有力選手を輩出した同部も近年は低迷。新入部員に「部の火を消してほしくない」と思いを託した。部員は「自分1人のためにボートを贈ってくれてありがたい。洛陽工ボート部をもっと知ってもらいたい」と大舞台での活躍を目指す。

琵琶湖 夢託し進水

同高ボート部はかつて全国大会で上位に入り、世界大会の代表も輩出した。しかし最近では部員が減り、昨夏に3年生3人が引退した後は休部の状態が続いていた。

そこに今春入部したのが1年谷口一輝君(15)だ。中学時代は柔道部だったが、修学旅行で訪れた沖繩でのカヤック体験でボートの魅力を知り、教員の熱心な勧誘もあっ

地獄絵にぶるぶる

東山で学生が児童に語り



子どもが描いた地獄絵が、東山で児童に語りかけられている。

下水道

「夏休み親子教室」が9日に開かれた。京都市下京区の道トンネルの工場を見学した。口は見られない場所であって、子どもが興味深そうに話していた。

市の水道創設70周年記念事業の中で、水道に関心を持ってもらうと市道局が開いた。親子は南区の本庁舎で、下水が